九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

シンポジウム ： 情報管理組織のミッションと専門職養成

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院 ： 教授

大沼, 太兵衛
国立国会図書館

平野, 泉
立教大学共生社会研究センター

渡邊, 由紀子
九州大学附属図書館学術サポート課長

https://doi.org/10.15017/4738541

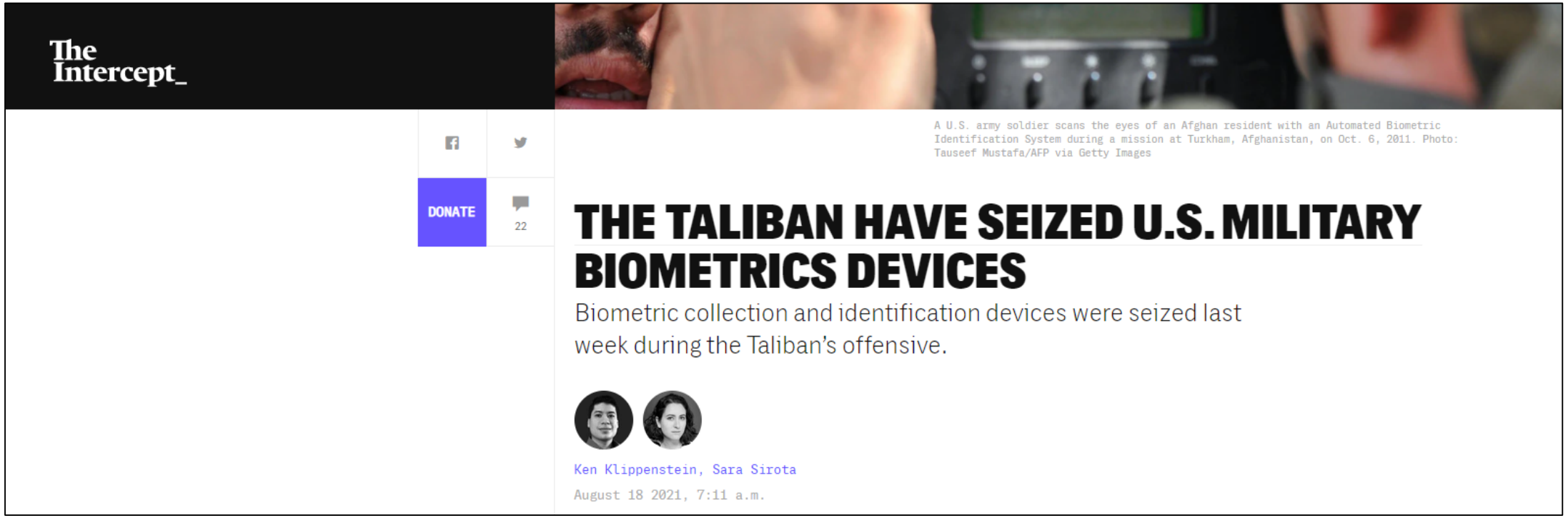
出版情報：2021-11-27. 九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻
バージョン：
権利関係：

シンポジウム
「情報管理組織のミッションと専門職養成」
@九州大学中央図書館
2021-11-27

アーキビストは資料・情報管理の専門職なのか？

立教大学共生社会研究センター
平野　泉（izhirano@rikkyo.ac.jp）

始める前に（1）



The Intercept_, “The Taliban Have Seized U.S. Military Biometrics Devices”, https://theintercept.com/2021/08/17/afghanistan-taliban-military-biometrics/, accessed 2021-09-16.
Reported on *Archives and Human Rights: News from the Section on Archives and Human Rights*, SAHR:ICA, Issue no.140, 2021-08.

始める前に（2）

PRIO Blogs, “Contingency Planning in the Digital Age: Biometric Data of Afghans Must Be Reconsidered”, https://blogs.prio.org/2021/08/contingency-planning-in-the-digital-age-biometric-data-of-afghans-must-be-reconsidered/?fbclid=IwAR2EVG3FeyHHt-kzvH2cWwk9EAwkimIfr_pHIWe2f01DLiBgCCJhvJulSxY, accessed 2021-09-16.
Reported on *Archives and Human Rights: News from the Section on Archives and Human Rights*, SAHR:ICA, Issue no.140, 2021-08.

問い（1）

私はタリバーン暫定政権のアーキビストになれるだろうか？

問い（2）

アーキビストは資料・情報管理の専門職なのか？

今日の報告

1. 自己紹介：「偶然のアーキビスト」？
2. 現在の職場：立教大学共生社会研究センターについて
3. 問い（1）について考える
4. 問い（2）について考える
5. 終わりに

履歴(1)

1986　大学卒業(外国語学部ドイツ語学科)、銀行に就職

1988～1989　ヨーロッパに1年間滞在、帰国後結婚

1989～　専業主婦

　1990　通信制大学(法学部)入学

　1993　医療福祉系専門学校(言語聴覚療法専攻科)入学

1995～1998　とある総合病院のリハビリテーション科勤務

おそらく1999　埼玉大学経済学部社会動態資料センターでアルバイト

履歴(2)

おそらく1999　埼玉大学経済学部社会動態資料センターでアルバイト

2000　南ドイツ新聞極東支社長アシスタント

2002　埼玉大学共生社会研究センター非常勤職員

2008　学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻
博士前期課程入学

2010　同課程修了、立教大学共生社会研究センターへ
学習院大学大学院アーカイブズ学専攻博士後期課程に進学

2013　同課程単位取得退学

今日の報告

1. 自己紹介:「偶然のアーキビスト」?
2. **現在の職場:立教大学共生社会研究センターについて**
3. 問い(1)について考える
4. 問い(2)について考える
5. 終わりに

立教大学共生社会研究センターとは

立教大学共生社会研究センターとは

目的（センター規則　第2条）

「…埼玉大学と協力して、国内外における
多様な市民の社会活動に関する資料を
収集整理、保存、公開し、それに基づく
実証研究を通じて、持続可能な共生社会の
実現に資すること」

「多様な市民の社会活動に関する資料」

S01　吉川勇一氏旧蔵・「べ平連」運動関連資料

R09/10　下垣桂二氏・楠原彰氏旧蔵
反アパルトヘイト運動関連資料

社会運動のアーカイブズ

- 20世紀前半から収集機関増加
  - 運動経験を継承する必要
  - counter-narrativeとしての意義

今日の報告

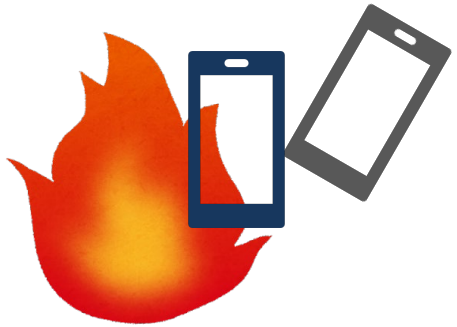
1. 自己紹介：「偶然のアーキビスト」？
2. 現在の職場：立教大学共生社会研究センターについて
3. **問い（1）について考える**
4. 問い（2）について考える
5. 終わりに

問い（1）

私はタリバーン暫定政権のアーキビストになれるだろうか？

2019年8月、アメリカ・アーキビスト協会(SAA)大会での「ブラウンバッグランチ中止」の衝撃

- The American Archivist（以下「AA」）掲載予定のFrank Boles論文“*To Everything There is a Season*”を用いた「ブラウンバッグランチ」企画
- 企画実施前にSNSが「炎上」：著者のBoles、AA誌編集委員、SAAへの非難



2019年8月、アメリカ・アーキビスト協会(SAA)大会での「ブラウンバッグランチ中止」の衝撃

- SAAは企画中止を決定
- AA誌は企画中止に至る経緯の説明文と、Boles論文及びそれに対する反論を同時掲載
- BolesはSAAを退会

「ブラウンバッグランチ中止」の背景（1）

- 大きな前提： アメリカ・アーカイブズ界で蓄積してきたアーキビスト・アーカイブズと社会正義（social justice）をめぐる議論
- Randall JimersonとMark Greeneによる「社会正義論争」（2013）
  - Jimerson：アーキビストは社会正義の実現を目指す
  - Greene: 個人として社会正義を追求するのはよいが、専門職としてはどうか
- 異なる意見を持つ二人が、互いを尊重しつつ議論

「ブラウンバッグランチ中止」の背景（1）

- 源流は1970年代初め
  - 1970年SAA大会でのHoward Zinn講演
    - 社会的統制の強力な形式としての専門性
    - そのことに無自覚なアーキビスト

    →保存されるアーカイブズは富・権力の分配のされ方に規定（Zinn 1977）

  - コレクションを「人類に差し出す鏡」に（Ham 1975:13）

    ＊このあたりのことは平野（2013）にも

- アーキビストの仕事の「権力性」：「情報は権力」

「ブラウンバッグランチ中止」の背景（2）

【情勢の変化】

- 2015～16年 #BlackLivesMatter が全国的運動に
- Mario Ramirez（2015）：Greene（2013）を素材にアメリカ・アーカイブズ界の白人中心主義を批判
- 問題のBoles（2019）はRamirez（2015）への反論として書かれ、Greene（2013）への共感を示したもの

☞「特権を享受する側」への怒りがBolesに向けられた？

☞KKK記録の購入に関するBoles（1995）まで批判された

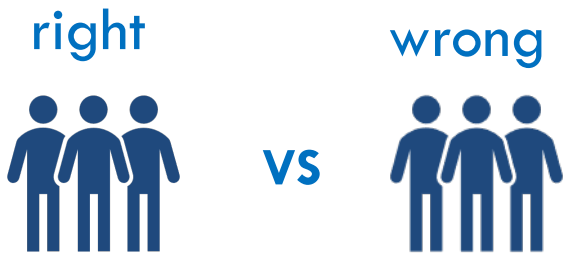
「ブラウンバッグランチ中止」の背景（3）

【「social justice」概念のあいまいさ】

アーカイブズ界では、そもそも「social justiceとは何か？」を明確に定義しないまま議論がなされてきた（Wallace 2017）

- 2013年のsocial justice=社会「正義」
- その後のsocial justice=おそらく日本語では「社会的公正」？

「ブラウンバッグランチ中止」の背景（3）-2



【「social justice」概念のあいまいさ】

- 2013年のsocial justice=社会「正義」
  - 不正と対峙する正義
  - 特定の社会・時代の「正義」に依拠することのあやうさ
- その後のsocial justice=おそらく「社会的公正」
  - 不正の存在→特権層の無自覚→不正の強化ーという連鎖を止める
  - よって「社会的公正」はつねに正しい
  - しかしBolesは社会「正義」を念頭に議論を展開

「ブラウンバッグランチ中止」以後

- 「social justice」はもはや論点ではない
- より公正な社会のためのアーカイブズ実践には共感
  - 抑圧されたコミュニティとの協働
  - 差別的記述の見直し
- 「不公正に与する側」とみなされる組織のアーキビストになれるか？

問い（1）

私はタリバーン暫定政権のアーキビストになれるだろうか？

問い（1）
私はタリバーン暫定政権のアーキビストに…

- 基本的には「なれる」と答えるべき
- でも本音では「なれそうにない…」
- 記録を作る人々への共感が自分には必要

今日の報告

1. 自己紹介：「偶然のアーキビスト」？
2. 現在の職場：立教大学共生社会研究センターについて
3. 問い（1）について考える
4. **問い（2）について考える**
5. 終わりに

問い（2）

アーキビストは資料・情報管理の専門職なのか？

答えは自明のことのよう…

もちろん「YES」なのだが…

- アーキビストは記録を作り・使う人々とつながる／をつなぐ仕事
- 知識やスキル、ルールや手順を超えて
- “people issues/problem”（MacLeod et al. : 2010、Oliver&Foscarini: 2014）
- うまくいかないとき、アーキビストは問題の一部

「情報の政治家」（1）

Davenport, Eccles and Prusak（1992）

- 情報は権力の源泉＝その管理は政治的作用である
- 情報に基づく組織を考えるための5つの情報政治のモデルを提示

「情報の政治家」（2）

Davenport, Eccles and Prusak（1992）

- 5つの情報政治のモデル
  - a. Technocratic Utopianism（技術支配のユートピア主義）
  - b. Anarchy（無政府状態）
  - c. Feudalism（封建制）
  - d. Monarchy（君主制）
  - e. Federalism（連邦制）

「情報の政治家」(3)

Davenport, Eccles and Prusak(1992)

- 組織の現状がどのモデルに近いか、どのモデルをめざすかを決める
- 組織文化との適合性を考慮
- 技術的解決に関しては現実的に
- 適切な「情報の政治家」(information politician)を選ぶ

→組織内で「情報の政治家」になれるアーキビストが必要なのでは?

今日の報告

1. 自己紹介：「偶然のアーキビスト」？
2. 現在の職場：立教大学共生社会研究センターについて
3. 問い（1）について考える
4. 問い（2）について考える：
5. **終わりに**

まとまりない話をまとめてみると

- 偶然の導きで社会運動専門のアーキビストになったという個人的経験
- アーキビストは的確に資料や情報をさばければよい、というわけではない
- 資料・情報を作り、使う人々の真っただ中で悩み、動く
- 誰もが心地よくアーカイブズを利用できるように
- 誰もがよりよくアーカイブズを管理できるように
- “passive curator, active appraiser, societal mediator, community facilitator” (Cook 2013:116)

「デジタルアーカイビングに必要なスキルと能力」

（Cunningham 2008: 542）
アーカイブズ学理論やプログラミングなどの知識に加えて求められる「技術、能力、資質」として

- コミュニケーション能力・影響力
  ・チェンジマネジメント
- 協議・交渉
- 柔軟性と健全な判断
- 調査・研究
- リスク評価・リスク管理
- システム設計と実装
- ビジネスケース作成
- モデリング＆機能・プロセス分析
- 防災対策・事業継続計画

…と書いた本人でさえも

“Indeed, I sometimes wonder
if only superhumans
can deliver our expectations!”

(Cunningham 2008: 542)

アーキビスト養成課程への期待

「アーカイブズ学専攻」での学生・講師双方を経験してみて…

- 知識もスキルもどんどん古くなる： 学ぶ量を増やしてもあまり意味がない
- 原理・原則を血肉とし、しかもそれをつねに問い直す姿勢
- 「誰もが読むべき文献」を読んで徹底討論
- 各科目の独立性 ＜ プログラム全体の一貫性
- 知識転移・研究重視 ＜ 課題発見／解決・ 討論重視
- 何もかもが学びのネタとなりうる
- 養成課程の増加→効果的なアーキビスト教育法の研究を

「そんな専門家風、吹かすもんじゃない」

いらすとやさん、ありがとうございます…

参考文献（スライド文中未掲載分）-1

Boles, Frank. " " Just a Bunch of Bigots" : A Case Study in the Acquisition of Controversial Material. " *Archival Issues,* vol.15, no.1, 1994, pp.53-65.

Boles, Frank J. "To Everything There Is a Season." *The American Archivist,* vol.82, no.2, 2019, pp. 598-617. https://doi.org/10.17723/aarc-82-02-21

Cook, Terry. "Evidence, memory, identity, and community: four shifting archival paradigms. " *Archival Science*, vol.13, 2013, pp.95-120. https://doi.org/10.1007/s10502-012-9180-7

Cunningham, Adrian. "Digital Curation/Digital Archiving: A View from the National Archives of Australia." *The American Archivist,* vol.71, issue 2, 2008, pp.530-543. https://doi.org/10.17723/aarc.71.2.p0h0t68547385507

Davenport, Thomas H., Robert G. Eccles, Laurence Prusak. "Information Politics." *Sloane Management Review,* Fall 1992, pp.53-65.

参考文献（スライド文中未掲載分）-2

Greene, Mark A. "A Critique of Social Justice as an Archival Imperative: What Is It We're Doing That's All That Important?" *The American Archivist,* vol. 76, no.2, 2013, pp.302-334. https://doi.org/10.17723/aarc.76.2.1474412146 63kw43

Ham, F. Gerald. "Archival Edge. " *The American Archivist,* vol.38, no.1, 1975, p.5-13. https://doi.org/10.17723/aarc.38.1.7400r8648112 8424

平野泉「アメリカのアーキビストと社会運動記録："Archival Edge''をめぐって」GCAS report=学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報, vol.2, 2013, pp. 58-67. http://hdl.handle.net/10959/3741

Jimerson, Randall C. "Archivists and Social Responsibility: A Response to Mark Greene. " *The American Archivist*, vol. 76, no.2, 2013, pp.335-345. https://doi.org/10.17723/aarc.76.2.2627p15350572t21

参考文献（スライド文中未掲載分）-3

Oliver, Gillian and Fiorella Foscarini. *Records Management and Information Culture: Tackling the people problem*. Facet Publishing, 2014.

Ramirez, Mario H. "Being Assumed Not to Be: A Critique of Whiteness as an Archival Imperative." *The American Archivist*, vol.78, no.2, 2015, pp.339-356. https://doi.org/10.17723/0360-9081.78.2.339

Wallace, David A. "Archives and Social Justice. " *Currents of Archival Thinking*. 2nd ed., edited by MacNeil, Heather and Terry Eastwood, Libraries Unlimited, 2017, pp.271-297.

Zinn, Howard. "Secrecy, Archives, and the Public Interest." *The Midwestern Archivist*, vol.2, no.2, 1977, pp.14-26. http://digital.library.wisc.edu/1793/44118

（URLはすべて2021-10-25最終確認）

ご清聴ありがとうございました。

izhirano@rikkyo.ac.jp